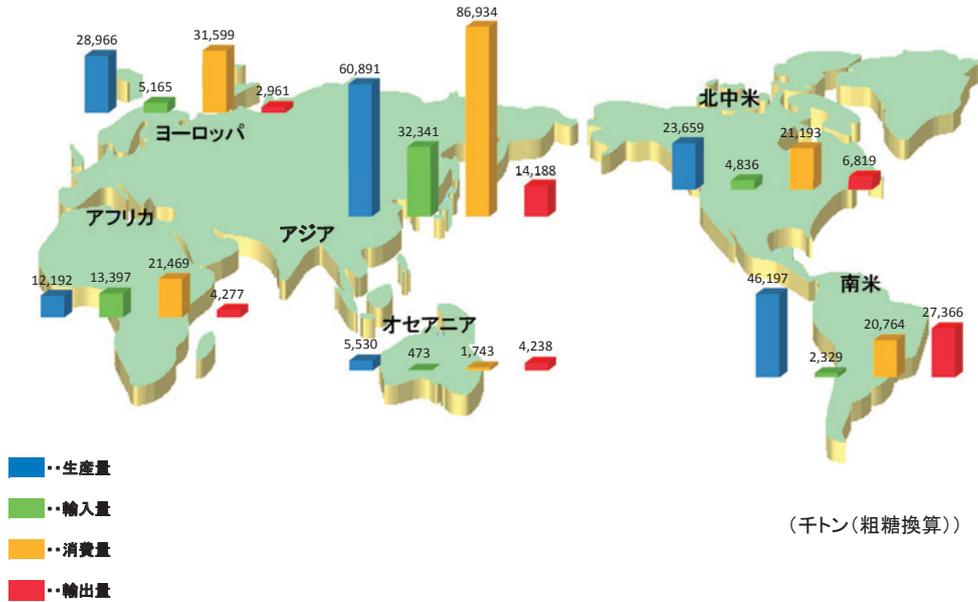


## 砂糖の国際需給

調査情報部 丸吉 裕子

### 1. 世界の砂糖需給（2016年12月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別の砂糖需給（2016/17年度予測値）



資料：Agra CEAS Consulting※ [World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,December 2016]  
 (※農産物の需給などを調査する英国の大手民間調査会社)  
 注1：年度は2015年10月～翌9月。  
 注2：ヨーロッパには、EU加盟国とロシアほか5カ国を含む。

表1 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン(粗糖換算)、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1988/89	37,029	104,469	26,514	107,025	25,510	35,477	33.1
1993/94	38,687	111,631	31,183	112,637	32,845	36,020	32.0
1998/99	47,513	135,418	39,767	125,645	42,435	54,618	43.5
2003/04	66,547	143,844	46,336	141,913	49,194	65,620	46.2
2008/09	71,448	151,609	49,876	161,864	50,977	60,092	37.1
2012/13	63,965	184,182	59,214	171,672	61,611	74,077	43.2
2013/14	74,077	181,466	58,562	175,764	59,245	79,097	45.0
2014/15	79,097	180,960	58,539	178,828	59,632	80,135	44.8
2015/16	80,135	174,673	62,275	181,051	66,201	69,832	38.6
2016/17 (2016年9月予測)	70,409	174,760	58,542	183,550	58,669	61,493	33.5
2016/17 (2016年12月予測)	69,832	177,435	58,541	183,701	59,849	62,258	33.9

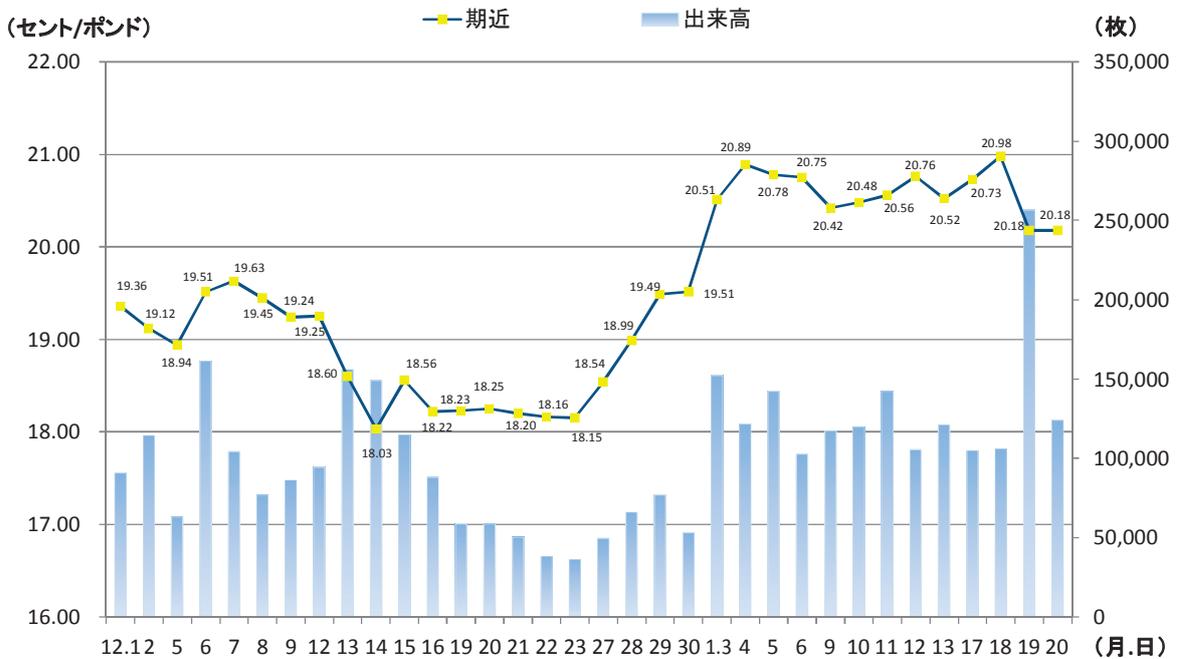
資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar :Supply Balance and Policy Trend Analysis ,December 2016]  
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。  
 注2：2013/14年度から2015/16年度までは推定値、2016/17年度は予測値である。  
 注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）である。

## 2. 国際価格の動向

### ニューヨーク粗糖相場の動き (12/1 ~ 1/20)

～インドの減産見通しから、1ポンド当たり20.98セントまで上昇～

図2 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所 (ICE)

ニューヨーク粗糖先物相場（期近3月限）の12月の推移を見ると、5日に1ポンド当たり18.94セントに下落後、翌6日には反発し、7日は同19.63セントの値を付けたものの、米ドル高レアル安の進行から、13日には同18.60セントと5カ月振りの18セント台となり、さらに14日は売り込まれ、同18.03セントまで落ち込んだ。15日には買い戻しが入り同18.56セントまで反発したものの、その後は2017/18年度以降の国際砂糖需給が供給増に転換するとの観測などから弱含みで推移し、23日は

同18.15セントとなった。しかしながら、その後、インドの砂糖生産量が当初予測を下回るとの見通しから急伸し、30日は同19.51セントとなった。

1月に入ってから、インドの砂糖主産地であるマハラシュトラ州の製糖工場が早期に操業を停止したことなどが押し上げ要因となり、4日には同20.89セントまで上昇し、その後も高値で推移し18日には同20.98セントの値を付けた。その後の相場は、中国やブラジルでの砂糖の増産見通しから軟調に推移し、20日は同20.18セントとなった。

### 3. 世界の砂糖需給に影響を与える諸国の動向（2017年1月時点予測）

#### ブラジル

##### 2016/17年度（4月～翌3月）の見通し

###### 【サトウキビ】

収穫面積：911万ha（前年度比5.3%増）  
生産量：6億8195万トン（同2.5%増）

###### 【砂糖（甘しや糖）】

生産量：4030万トン（同14.5%増）  
輸出量：2805万トン（同11.6%増）

#### 2016/17年度の砂糖生産量、輸出量はともにかなり増加の見込み

2016/17砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、収穫期の天候不順などにより前年度に収穫しなかったものも含まれるため、911万ヘクタール（前年度比5.3%増）とやや増加が見込まれるものの、サトウキビの新植が進まず単収の低下が見込まれることから、生産量は6億8195万トン（同2.5%増）と、わずかな増加にとどまると見込まれている。

一方、国際砂糖価格の上昇により、企業がサトウキビの砂糖への仕向け割合を増やしていることや製糖歩留まりが向上していることなどから、砂糖生産量は、4030万トン（同14.5%増）とかなりの増加が見込まれている。さらに、連邦政府が、エタノール販売に係る社会負担税（エタノール1リットル当たり0.12リアル（4円（12月末日TTS：1リアル＝36円））を2017年1月より再導入する方針であることから、今後、企業がサトウキビの砂糖への仕向け割合をさらに増加させる可能性も考えられる。砂糖の増産に伴い、輸出量も、2805万トン（同11.6%増）とかなりの増加が見込まれている。

他方、ブラジル国家食糧供給公社（CONAB）<sup>（注1）</sup>が12月中旬に公表したサトウキビなどの2016/17年度生産見通しによると、サトウキビ栽培面積は911万ヘクタール（同5.3%増）とやや増加した。生産量も6億9454万トン（同4.4%増）と、やや

増加が見込まれているが、これには、収穫期の天候不順などにより前年度に収穫しなかった分も考慮されていると考えられる。また、砂糖生産量は3981万トン（同18.9%増）と大幅な増加が見込まれるのに対し、エタノール生産量は2786万キロリットル（同8.5%減）と、かなりの減少が見込まれている。

また、ブラジルサトウキビ産業協会（UNICA）<sup>（注2）</sup>が発表した2016年4～12月の生産実績報告によると、同国中南部地域のサトウキビ圧搾量は、5億9200万トン（前年同期比0.6%増）と前年度並みであったものの、砂糖生産量は3520万トン（同15.7%増）とかなり増加した。これは、サトウキビ1トン当たりの産糖量が59.5キログラム（同15.0%増）とかなり増加していることや、企業が砂糖への仕向け割合を増やしているためとみられる。

なお、同報告によると、エタノール生産量は、2491万キロリットル（同7.6%減）とかなり減少した。また、輸出量も含めたエタノールの販売量は、2037万キロリットル（同11.0%減）となった。このうち、含水エタノール<sup>（注3）</sup>の国内販売量は、在庫量の減少に伴い、エタノール価格が高騰したため、1152万キロリットル（同17.0%減）となった。石油・天然ガス・バイオ燃料監督庁（ANP）によると、12月の含水エタノール小売価格（サンパウロ州）は、1リットル当たり2.69リアル（97円）と、ガソリン小売価格の同3.57リアル（129円）の

70%<sup>(注4)</sup>を上回っている。このため、含水エタノールのガソリンに対する優位性は低下していると考えられる。

(注1) 主要作物の生産状況報告や予測などを行っているブラジル農務省直轄の機関。

(注2) ブラジル全体の砂糖生産量の9割を占める中南部地域を区域としている団体。

(注3) 自動車の燃料として用いられるエタノールには、含水と無水の2種類がある。含水エタノールは製

造段階で蒸留した際に得られた水分を5%程度含み、フレックス車（ガソリンとエタノールいずれも燃料に利用できる自動車）でそのまま燃料として利用される。一方、無水エタノールは含水エタノールから水分を取り除きアルコール100%としたもので、ガソリンに混合して利用される。

(注4) 一般的なフレックス車のエタノール燃料効率がガソリンの70%程度とされていることから、消費者の購入判断の基準となっている。

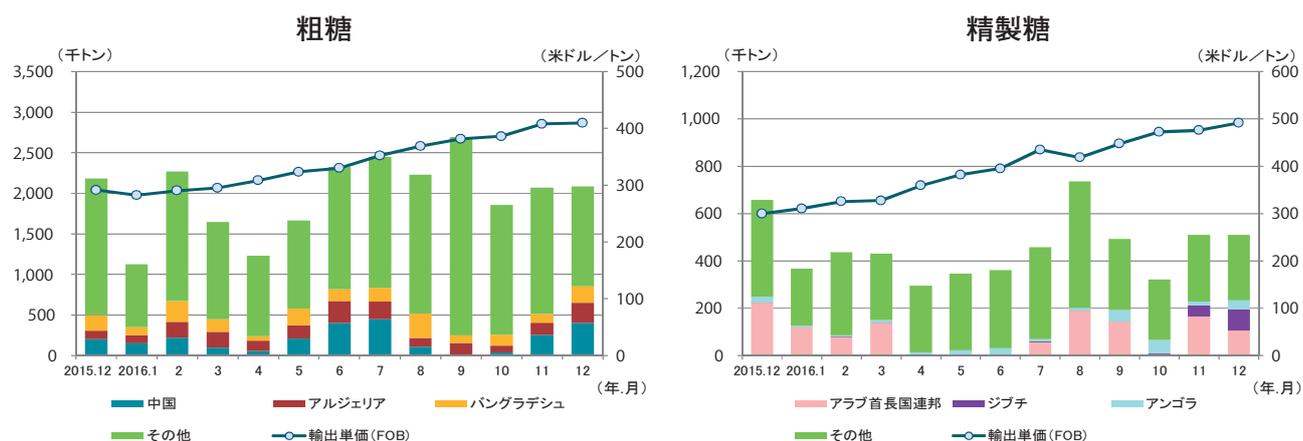
表2 ブラジルの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (12月予測)	2016/17 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	8,811	9,004	8,655	9,585	9,111	5.3	
サトウキビ生産量	658,822	634,767	665,586	681,952	681,952	2.5	
砂糖	生産量	39,494	37,313	35,194	39,600	40,300	14.5
	輸入量	-	-	-	-	-	-
	消費量	12,640	12,400	12,000	12,000	12,000	0.0
	輸出量	27,053	24,666	25,124	27,649	28,048	11.6
	期末在庫量	2,296	2,543	613	564	865	41.2
	期末在庫率	18.2	20.5	5.1	4.7	7.2	41.2

資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, January 2017」

(参考) ブラジルの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## インド

### 2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：474万ha（前年度比6.2%減）

生産量：3億3193万トン（同7.5%減）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：2450万トン（同10.5%減）

輸出量：130万トン（同67.9%減）

### 2016/17年度の砂糖生産量はかなり減少、輸出量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、サトウキビ収穫面積は474万ヘクタール（前年度比6.2%減）、生産量は3億3193万トン（同7.5%減）と、ともに干ばつの影響によりかなりの減少が見込まれている。このため、砂糖生産量も、2450万トン（同10.5%減）とかなりの減少が見込まれている。

しかしながら、インド砂糖製造協会（ISMA）が発表した2016年10～12月の生産実績報告によると、砂糖生産量は、精製糖換算で809万トン（前年同期比0.4%増）となった。このうち、サトウキビ栽培面積が拡大し、最大の生産州になると見込まれているウッタルプラデシュ州では274万トン（同52.5%増）と大幅に増加した一方で、干ばつの影響により、マハラシュトラ州では253万トン（同25.1%減）、グジャラート州では35万トン（同24.1%減）と大幅に減少し、カルナタカ州では156万トン（同2.1%減）とわずかに減少した（図3）。

現地報道によると、サトウキビの減産に伴い、例年11月～翌4月にかけて操業を行うマハラシュトラ州では、製糖工場のうち25工場が、12月までに操業を終えており、他工場も2月までの操業終了が見込まれる。

一方、同国では、砂糖の減産により2015年末か

ら国内の砂糖価格が高騰しており、中央政府は、国内市場での砂糖の流通量を増やし、価格の安定化を図ることとしている。このため、同政府は6月中旬以降、粗糖を輸入して6カ月以内に再輸出する精製糖や2500トンのオーガニックシュガーを除いた砂糖の輸出に対し、輸出関税（20%）を導入している。さらに、製糖企業に対する砂糖在庫量の上限<sup>（注）</sup>を2017年4月まで設定することとしている。これらにより、砂糖輸出量は、130万トン（前年度比67.9%減）と大幅な減少が見込まれている。

また、1月上旬の現地報道によると、実施が予想されていた砂糖の輸入関税の撤廃もしくは引き下げについて、中央政府は直ちに実施する意向はないものとみられる。これは、複数の州が選挙を控えていることが背景にあると考えられる。仮に、砂糖の輸入関税が撤廃もしくは引き下げられることとなれば、海外産砂糖の需要が高まり、製糖企業の収入減が見込まれるため、製糖企業から生産者へのサトウキビ代金支払いの遅延が懸念されるとして、ISMAは反発している。

（注）中央政府は、貿易業者に限定していた砂糖在庫量の上限設定を製糖企業にも適用することとし、各製糖企業が保持できる在庫量は、9月末時点では2015/16年度の砂糖生産量の37%、10月末時点では同24%を上限と設定していた。

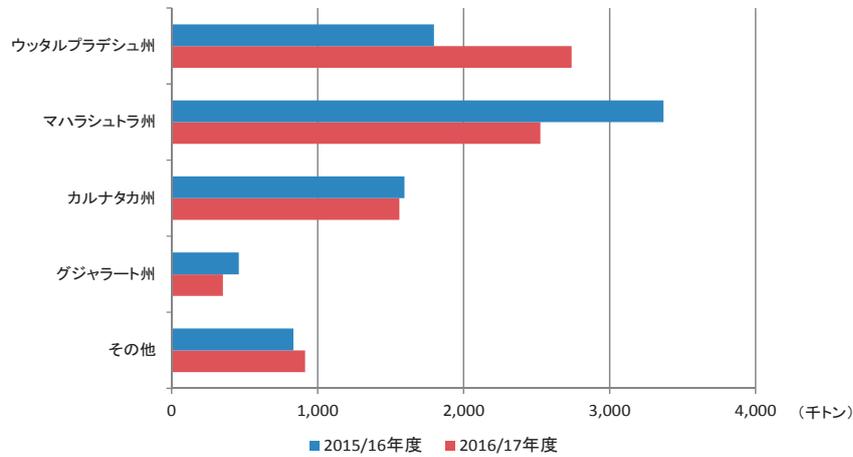
表3 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (12月予測)	2016/17 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	5,060	5,060	5,055	4,739	4,739	▲ 6.2	
サトウキビ生産量	341,200	362,333	358,891	331,926	331,926	▲ 7.5	
砂糖	生産量	26,580	30,616	27,372	24,500	24,500	▲ 10.5
	輸入量	1,349	1,303	1,904	1,300	1,300	▲ 31.7
	消費量	26,295	27,842	27,826	28,200	28,200	1.3
	輸出量	2,742	2,608	4,045	1,300	1,300	▲ 67.9
	期末在庫量	8,223	9,692	7,097	3,348	3,397	▲ 52.1
	期末在庫率	31.3	34.8	25.5	11.9	12.0	▲ 52.8

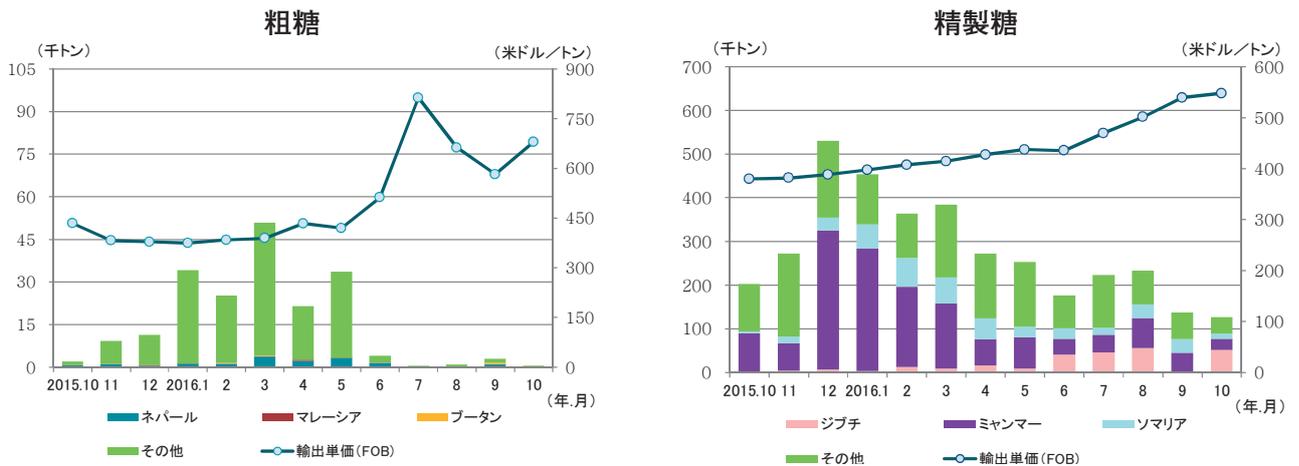
資料：Agra CEAS Consulting「World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, January 2017」

図3 インドの地域別甘しゅ糖生産実績（10～12月の生産量）



資料：ISMA  
注：精製糖換算。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## 中国

### 2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【サトウキビ・てん菜】

収穫面積：183万ha（前年度比10.0%増）・15万ha（同10.0%増）

生産量：1億2652万トン（同7.9%増）・771万トン（同5.0%増）

#### 【砂糖（甘しゅ糖およびてん菜糖）】

生産量：1087万トン（同14.9%増）

輸入量：355万トン（同42.8%減）

### 2016/17年度の砂糖生産量はかなり増加、輸入量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、サトウキビについては、収穫面積が183万ヘクタール（前年度比10.0%増）、生産量が1億2652万トン（同7.9%増）と、ともにかなりの増加が見込まれている。これは、広西チワン族自治区や海南省における栽培面積の増加に加えて、良好な生育状況が要因である。

てん菜についても、収穫面積は15万ヘクタール（同10.0%増）とかなり増加し、生産量は771万トン（同5.0%増）とやや増加が予想されている。これは、主要生産地である内モンゴル自治区の増加などが要因である。これらにより、砂糖生産量は、1087万トン（同14.9%増）とかなりの増加が見込まれている。

また、中国砂糖協会（CSA）が発表した2016年10～12月の生産実績報告によると、砂糖生産量は精製糖換算で230万トン（前年同期比19.9%増）と大幅に増加した（図4）。これは、サトウキビおよびてん菜の栽培面積拡大により、甘しゅ糖が152

万トン（同26.6%増）と大幅に増加し、てん菜糖も77万トン（同8.4%増）とかなり増加したことによる。

なお、CSAが発表した先に2016/17年度の砂糖生産見通しによると、精製糖換算で、甘しゅ糖が896万トン（前年度比14.1%増）、てん菜糖が104万トン（同22.4%増）とともに増加し、全体で1000万トン（同15.1%増）とかなりの増加が見込まれている。特に、最大生産地域である広西チワン族自治区の甘しゅ糖生産量は600万トン（同17.4%増）、内モンゴル自治区のてん菜糖生産量が47万トン（同65.5%増）と、ともに大幅な増加が見込まれている。

さらに、中央政府による備蓄砂糖の国内企業への売り渡しを開始され、12月末までの3回の入札で合計39万8000トンが売り渡された。CSAは2016/17年度に200万トン程度、2017/18年度も同程度の備蓄砂糖の放出を見込んでいる。このため、砂糖輸入量は、355万トン（同42.8%減）と大幅な減少が見込まれている。

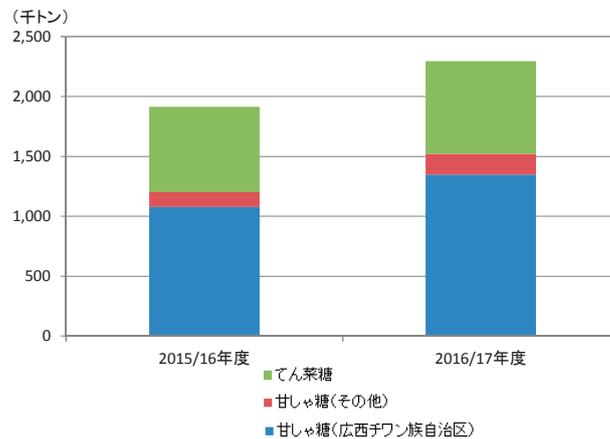
表4 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (12月予測)	2016/17 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,819	1,760	1,660	1,827	1,827	10.0	
サトウキビ生産量	125,536	125,611	117,295	126,522	126,522	7.9	
てん菜収穫面積	182	139	135	149	149	10.0	
てん菜生産量	9,260	8,000	7,337	7,705	7,705	5.0	
砂糖	生産量	14,476	11,474	9,459	10,869	10,869	14.9
	輸入量	4,054	5,354	6,199	3,684	3,546	▲ 42.8
	消費量	16,150	16,600	17,065	17,600	17,250	1.1
	輸出量	51	64	167	82	84	▲ 50.0
	期末在庫量	7,141	7,305	5,731	2,566	2,812	▲ 50.9
	期末在庫率	44.2	44.0	33.6	14.6	16.3	▲ 51.5

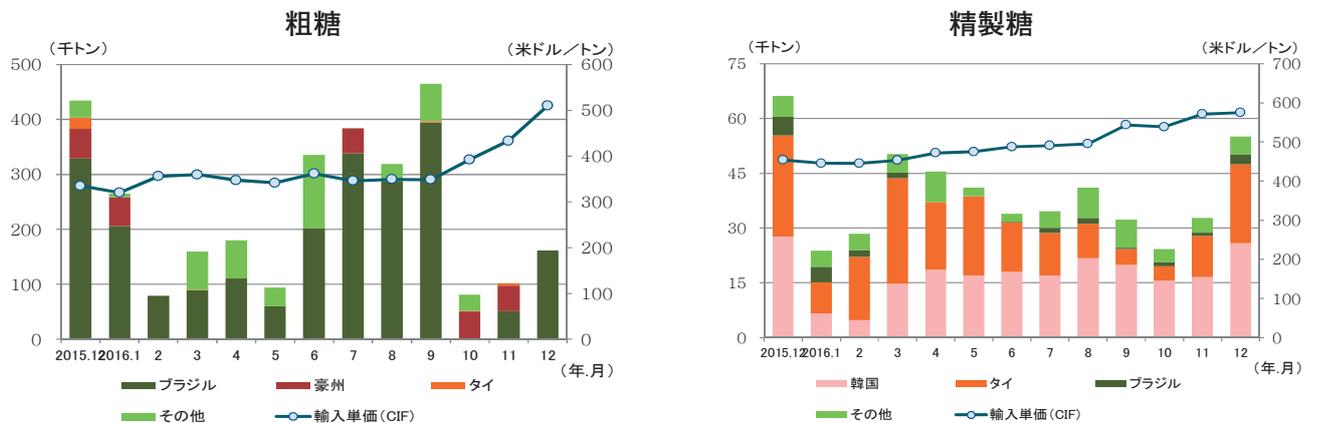
資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, January 2017]

図4 中国の砂糖生産実績（10～12月の生産量）



資料：CSA  
注：精製糖換算。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入単価の推移



資料：[Global Trade Atlas]  
注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## E U

### 2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

#### 【てん菜】

収穫面積：159万ha（前年度比10.8%増）

生産量：1億1218万トン（同6.7%増）

#### 【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1752万トン（同18.8%増）

輸入量：339万トン（同9.0%減）

### 2016/17年度の砂糖生産量は大幅増、輸入量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、てん菜収穫面積が159万ヘクタール（前年度比10.8%増）、生産量は1億1218万トン（同6.7%増）と、ともにかなりの増加が予想されている。2017年10月以降の生産割当の廃止を目前に、生産量上位国であるフランスやドイツでは、在庫増への懸念から栽培面積の拡大に慎重になっているとみられる一方、ポーランドやオランダなどでは栽培面積を前年度から約2割増加させるなど、積極的に増産する動きも見られている。記録的な生産量となった2014/15年

度に比べ、春先の低温や降雨のため単収が低下すると見込まれているものの、前年度と比べて産糖量の増加が見込まれていることなどから、砂糖生産量は、1752万トン（同18.8%増）と大幅な増加が予想されている。

砂糖の増産に伴い、砂糖輸入量は、339万トン（同9.0%減）とかなりの減少が予想されている。

一方、欧州委員会が12月下旬に公表した2016/17年度の生産予測によると、砂糖生産量は精製糖換算で1666万トン（同11.6%増）とかなり増加し、砂糖輸入量は350万トン（同0.3%増）と前年度並みにとどまると見込まれる。

表5 EUの砂糖需給の推移

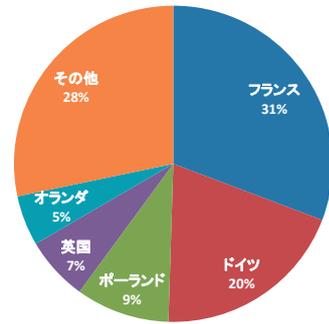
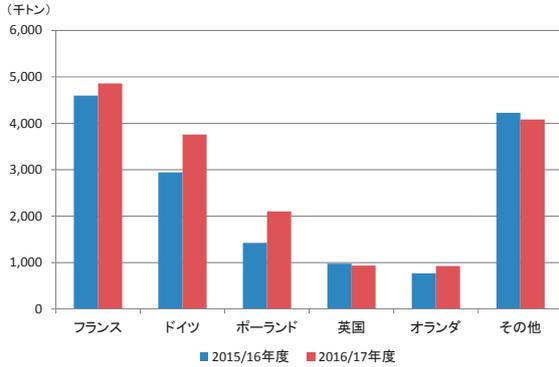
（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (12月予測)	2016/17 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	1,578	1,632	1,437	1,592	1,592	10.8	
サトウキビ生産量	108,979	131,009	105,162	112,184	112,184	6.7	
砂糖	生産量	16,867	19,318	14,752	17,521	17,521	18.8
	輸入量	3,944	3,456	3,725	3,389	3,389	▲ 9.0
	消費量	19,268	19,281	19,334	19,429	19,429	0.5
	輸出量	1,540	1,558	1,506	1,467	1,467	▲ 2.6
	期末在庫量	9,161	11,096	8,733	8,436	8,747	0.2
	期末在庫率	47.5	57.5	45.2	43.4	45.0	▲ 0.3

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, January 2017]

注：期末在庫量は、非食用などを含む。

(参考) EUの主要国別砂糖生産見込みおよび生産割合



資料：欧州委員会  
 注1：精製糖換算。  
 注2：2016年9月時点での予測値。  
 注3：2015/16年度は推定値、2016/17年度は予測値。  
 注4：生産割合は2016/17年度。

## 4. 日本の主要輸入先国の動向 (2017年1月時点予測)

近年、日本の粗糖（甘しや糖・分みつ糖（HSコード1701.14-110）および甘しや糖・その他（同1701.14-200）の合計）の主要輸入先国は、タイ、豪州、南アフリカ、フィリピン、グアテマラであったが、2015年の主要輸入先国ごとの割合は、タイが56.0%（前年比1.9ポイント減）、豪州が39.0%（同8.7ポイント増）、グアテマラが4.9%（同3.2ポイント増）と、この3カ国でほぼ全量を占めている（財務省「貿易統計」）。

タイおよび豪州は毎月の報告、南アフリカ、フィリピン、グアテマラについては、原則として3カ月に1回の報告とし、今回は南アフリカを報告する。

### タイ

#### 2016/17年度（10月～翌9月）の見通し

**【サトウキビ】**

収穫面積：141万ha（前年度比0.2%減）  
 生産量：1億436万トン（同11.0%増）

**【砂糖（甘しや糖）】**

生産量：1000万トン（同0.2%減）  
 輸出量：709万トン（同9.1%減）

#### 2016/17年度の砂糖生産量は前年度並み、輸出量はかなり減少の見込み

2016/17砂糖年度（10月～翌9月）は、サトウキビ収穫面積は141万ヘクタール（前年度比0.2%減）と前年度並みと見込まれる一方、サトウキビの単収の回復が見込まれることから、生産量は1億436万トン（同11.0%増）と、かなりの増加が見込まれている。

しかし、長引く干ばつの影響により特に新植サト

ウキビの生育不良が見られることに加え、長雨により例年より約1カ月遅れの12月上旬からの収穫となったことから、製糖歩留まりの低下が予想され、砂糖生産量は、1000万トン（同0.2%減）と前年度並みと見込まれている。輸出量は、中国の輸入減少などに伴い、709万トン（同9.1%減）と、かなりの減少が見込まれている。

また、タイ製糖協会が発表した2016年12月の生産実績によると、サトウキビ圧搾量は1337万ト

ン（前年同期比33.3%減）、砂糖生産量は118万トン（同30.6%減）と、ともに大幅に減少した。

なお、現地報道によると、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）<sup>（注1）</sup>は10月上旬、20年来で最も深刻な干ばつの影響によりサトウキビから他作物へ転換する生産者もあることなどから、2016/17年度の砂糖生産量は930万～940万トンとの予測を発表した。

一方、タイ政府は、2月までに砂糖産業関連法の改正に向けた手続きを開始し、2017/18年度から適用する構えである<sup>（注2）</sup>。この改正によって、砂糖産業全体の収益をサトウキビ生産者と製糖業者で7：3の割合で分配する現行の収益分配方式や販売割当<sup>（注3）</sup>を廃止するとともに、政府が設定している国内砂糖価格を固定制から変動制に移行するものとみられる。

（注1）タイのサトウキビおよび砂糖関連政策の執行機関である3省（工業省（製糖関係）、農業協同組合省（原料作物関係）、商務省（砂糖の売買関係））とサトウキビ生産者および製糖企業の代表で構成され、工業省内に設置された「サトウキビ・砂糖委員会（TCSB）」の事務局。

（注2）タイ政府は4月初旬、国際砂糖価格の低迷時などに製糖企業を通じて生産者に支払われる補填金や、砂糖の販売割当および国内販売価格の設定は、間接的な輸出補助金に当たり国際貿易協定に違反しているとして、ブラジル政府からWTOに提訴された。これを受け、タイ政府は11月3日、ブラジルとの2国間協議の場に、10月中旬に閣議承認された砂糖政策の改革案を提出した。

（注3）タイ産砂糖は、A割当と呼ばれる国内供給向けとB割当およびC割当と呼ばれる輸出向けなどの販売割当に基づき管理されている。

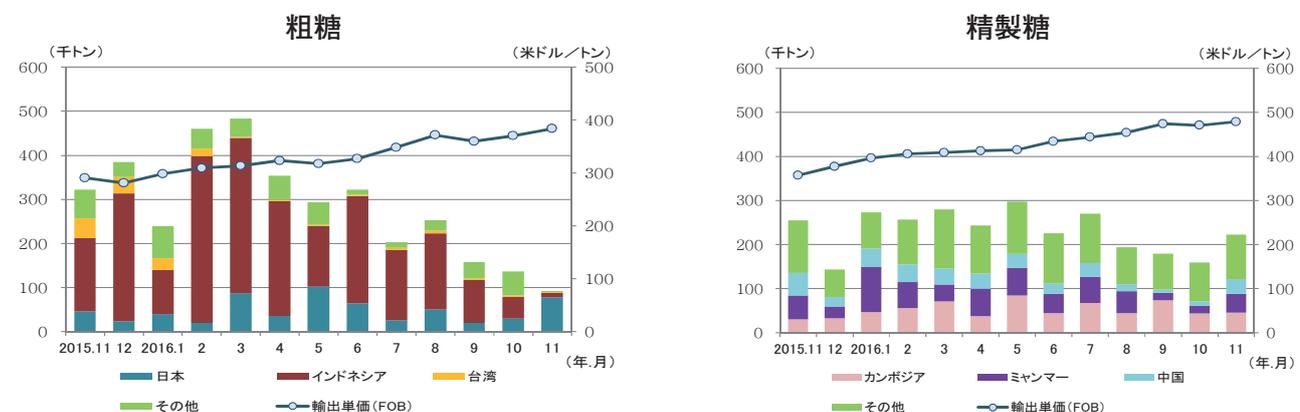
表6 タイの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (12月予測)	2016/17 (1月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	1,322	1,403	1,412	1,408	1,408	▲ 0.2
サトウキビ生産量	100,096	105,595	94,047	104,363	104,363	11.0
砂糖	生産量	11,677	11,579	10,025	10,000	▲ 0.2
	輸入量	-	-	-	-	-
	消費量	3,339	3,489	3,500	3,500	0.0
	輸出量	6,457	8,071	7,805	7,287	▲ 9.1
	期末在庫量	5,768	5,788	4,508	3,721	▲ 13.1
	期末在庫率	172.8	165.9	128.8	106.3	▲ 13.1

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, January 2017]

（参考）タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出単価の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。国別データは直近月の上位3カ国を表示。

## 豪州

### 2016/17年度（7月～翌6月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：39万ha（前年度比3.2%増）  
生産量：3550万トン（同1.9%増）

#### 【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：523万トン（同5.8%増）  
輸出量：401万トン（同2.5%減）

### 2016/17年度の砂糖生産量はやや増加、輸出量はわずかに減少の見込み

2016/17砂糖年度（7月～翌6月）は、サトウキビ収穫面積は39万ヘクタール（前年度比3.2%増）とやや増加し、生産量は3550万トン（同1.9%増）とわずかな増加が見込まれている。

一方、豪州砂糖製造事業者協議会（ACMC）によると、例年10月で終了するサトウキビ圧搾作業が、年明け（1月8日）まで行われ、サトウキビ圧搾量は3651万トンとなった。これは、ニューサウスウェールズ州や主産地であるクイーンズランド（QLD）州の一部の地域で降雨が続いたことが影響したとみられる。現地報道によると、QLD州北部地域のマッカイでは、過度な降雨による生育不良などから約6万トンのサトウキビの収穫が来年度に持

ち越されることとなり、サトウキビ圧搾量が当初計画の7%減となった工場があった。

サトウキビの増産に加え、製糖歩留まりの向上も見られることから、砂糖生産量は523万トン（前年度比5.8%増）と、やや増加が見込まれている。一方、中国の輸入減少などに伴い、輸出量は401万トン（同2.5%減）と、わずかな減少が見込まれている。

豪州農業資源経済科学局（ABARES）が12月中旬に公表した2016/17年度の生産予測によると、サトウキビ栽培面積は39万ヘクタール（同3.1%増）とやや増加し、単収の向上により、砂糖生産量は510万トン（同3.7%増）とやや増加が見込まれる。輸出量も405万トン（同2.7%増）と、わずかな増加が見込まれる。

表7 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (12月予測)	2016/17 (1月予測)	前年度比 (増減率)	
収穫面積	329	363	381	416	393	3.2	
サトウキビ生産量	27,136	32,360	34,827	34,427	35,500	1.9	
砂糖	生産量	4,306	4,773	4,946	5,230	5,230	5.8
	輸入量	159	170	98	140	140	42.4
	消費量	1,345	1,350	1,350	1,355	1,355	0.4
	輸出量	3,066	3,687	4,111	4,008	4,008	▲ 2.5
	期末在庫量	1,162	1,068	650	657	657	1.1
	期末在庫率	86.3	79.1	48.1	48.5	48.5	0.8

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, January 2017]

## 南アフリカ

### 2016/17年度（4月～翌3月）の見通し

#### 【サトウキビ】

収穫面積：29万ha（前年度比4.2%減）

生産量：1623万トン（同4.9%減）

#### 【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：170万トン（同1.6%減）

輸出量：20万トン（同33.6%減）

### 2016/17年度の砂糖生産量はわずかに減少、 輸出量は大幅減の見込み

2016/17砂糖年度（4月～翌3月）のサトウキビの収穫面積は29万ヘクタール（前年度比4.2%減）、生産量は1623万トン（同4.9%減）と、ともにやや減少が見込まれている。

砂糖生産量は、製糖歩留まりの改善がみられることから、170万トン（同1.6%減）とわずかな減少にとどまると見込まれている。2015/16年度から

砂糖の消費量が生産量を上回る状況が続き在庫量が減少していることから、輸出量は20万トン（同33.6%減）と、大幅な減少が見込まれている。

2014/15年度から続く干ばつの影響により、平年並みの降雨が続いたとしても、国内のダム貯水量が回復するまでには2～5年を要するという調査結果もあることから、2017/18年度以降もサトウキビおよび砂糖生産への影響が懸念される。

表8 南アフリカの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

年度	2013/14	2014/15	2015/16	2016/17 (10月予測)	2016/17 (1月予測)	前年度比 (増減率)
収穫面積	325	325	302	289	289	▲ 4.2
サトウキビ生産量	18,000	17,239	17,067	16,234	16,234	▲ 4.9
砂糖	生産量	2,485	2,239	1,728	1,700	▲ 1.6
	輸入量	812	474	470	642	13.8
	消費量	2,255	2,200	2,220	2,230	▲ 0.2
	輸出量	796	769	307	161	▲ 33.6
	期末在庫量	889	633	304	256	▲ 60.3
	期末在庫率	39.4	28.8	13.7	11.5	▲ 60.2

資料：Agra CEAS Consulting [World Sugar: Supply Balance, Price and Policy Trend Analysis, January 2017]